

白門ライオンズ会報

Quarterly of Lions

2021.10-11-12
2022.1

No.24

東京白門ライオンズクラブ <http://hakumon-lions.org/>



中央大学

東京白門ライオンズクラブ

TOKYO HAKUMON LIONS CLUB

ご挨拶

眠っていて下さい暴れ虎

終身名誉会長 中山 正暉



令和4年、壬寅の新年を迎えてまずご一同の皆様のご平安をお祈りします。十二支の第3番目、動物では虎に当てています。

史記では「虎を養って患いを遺す」。虎の子殺さず育てると凶暴な猛虎になってしまうと、後日の禍根となるものを温存しておくことの譬えがあります。趙弼の評史には「前門に虎を拒ぎ、後門に狼を進む」。一難去ってまた一難。虎は評判として荒れる猛獣のイメージから離れられないようです。

過去2年ばかりコロナ禍が吹き荒んで世界の前門また後門と、その都度、形体を変えては乱入してくる虎の様に防御網を掻い潜って暴れる、コロナとの闘いを繰り返してきました。

生物化学兵器禁止条約という病原菌または有毒な細菌、ウイルスなどを散布する兵器を禁ずる国際条約があります。ドローン等誰かが悪巧みをして細菌なる虎を野に放ったのではないかと「列子（説符・注）」疑心が起こると、在りもしない恐ろしい鬼の形が見えてくるように、何でもないことまでも疑わしく恐ろしく感ずる問題としても話題から論争にまで発展する火種ともなっ

ています。「史記」巻八一、「今両虎共闘、其勢不俱生」今両虎共に闘わば其勢いは生きじ。世界情勢も気になるところです。

米国・EU・英国・豪州の議会制民主主義国とロシア、変わったとはいいながら中国・北朝鮮と歩調を合わせる人民民主主義国との対立が西ではクリミア問題を中心に核拡散を懸念するイランとアメリカ。20年に亘るアフガンの穏健化に見切りをつけて撤退に踏み切った米国の戸惑い。

東では香港の一制度強行路線を顕在化させた中国が台湾併合路線実現を公然と鮮明化させる中、中華台北との台湾関係法四法上の立場からスプラトリー諸島への太平洋戦略を展開する陸の大国中国へヨーロッパと共同阻止構想を展開する東西両門で対峙するなかで国連憲章では未だに敵国条項を背負わせられた日本は阪神タイガースの動静が気になるのみ。

ライオンは寝ていていいのか、百獣の王が災いの種を一掃してほしい。

ご挨拶

新年のご挨拶

会長 河野 信之



明けましておめでとうございます。会員の皆様、ご家族の皆様におかれましては清々しく新たな年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、全国で感染者数が拡大、東京都でも1日で5,000人以上が感染し、長い間緊急事態宣言が発出され続けました。

ワクチン接種の効果で9月には緊急事態宣言が解除されましたが、年末より新種のオミクロン株が流行り始めています。一刻も早い収束を願うのは当然ですが、現実的にはいま暫くウィズコロナはやむを得ない状況だと思えます。

昨年7月、会長就任後、新型コロナウイルス感染症拡大に伴って、皆様が楽しみにしていた納涼例会の開催が日にちを二転三転した上、中止。この事は残念であると同時に、申し訳ございませんでした。ただ、様々な制約の中で通常例会、会員増強実行委員会、新アクティビティ検討委員会が開催でき、また、年末に

は歳忘れホームパーティーを楽しく開催できたことは、ひとえに会員の皆様のご協力のおかげと、心より感謝しております。

1月で折り返し地点となりますが、新型コロナウイルスへの警戒でライオンズクラブの活動が停滞してはいけないと考えています。新型コロナウイルスに関係なく、ライオンズクラブの活動を必要としている人たちがいるからです。周りの状況に気を配り、自分自身も最大限の予防をしながらクラブの活動を活性化していこうと思っています。あれもだめ、これもだめ、人と会うこともままならない。クラブ活動が出来なければクラブのメンバーが減っていくことは当たり前。こういう時代だからこそ新しい仲間を増やさなければいけないと思います。皆様のお力をいただき、会員増強と楽しいクラブライフの実現を目指します。

母校中央大学法学部の茗荷谷移転まであと1年強、より良い都心回帰が出来るよう、少しでも大学のお役に立てるよう皆様のご協力をお願いいたします。本年もよろしくお願いいたします。

私とすしざんまい木村君

第11代会長 L水津 正臣



ある会合で、すしざんまいの木村君（君と呼ぶ理由については追々わかんと思います）が講演した。講演後、参加者と記念写真を撮ることになった。写真を撮るため全員がカメラの前に並んでいたが、木村君は人気者だから参加者と話をしていた。

つい私は、「おーい、木村。写真を撮るぞー」と木村君に呼びかけた。周りの人はビックリした顔で、大社長の木村君を呼び捨てにするとは何事かという表情をしている。私も「しまった!」と思ったが、声に出したことは消えない。そこで、近くにいる人に「私と彼とは昔からの知り合いなので…」と言い訳をした。

私が昔、少年自衛隊にいたことを知っている人はいる。木村君も少年自衛隊にいたことを知っている人はいる。ただ、すぐにその事と呼び捨てにする関係とを結びつけることはない。

私は、昭和35年15歳の時、海上自衛隊の少年兵として入隊し、木村君も昭和43年、航空自衛隊の少年兵として入隊した。つまり、海と空の違いはあるが、少年自衛隊という特殊な生活をしてきた先輩と後輩の関係にある。人との付き合いはおかしなもの、若い頃に築かれた関係が、その後の関係を律するものである。

ご存知の通り、自衛隊は入隊した年の順に序列が決まる。1期違うと天と地ほどの差がある（リンチを受ける方とする方の違いは大きい）。どんなにつまらない人間でも、先輩であれば立てなければならない。

先輩は後輩に対し態度が大きい。海と空だから、しかも年齢も違うので、私と木村君が知り合ったのは自衛隊を離れて、かなり経ってからである。陸・海・空の少年自衛隊OBの会があったときに知り合った。少年自衛隊出身者では私の知るだけの範囲であるが、弁護士が10名位いる。その中で私に声をかけてくれ

たのが木村君である。後に知ったのだが、大学が一緒だったのは縁の深さを感じる。

木村君は皆も知る通り、人懐っこいイメージがある。いつの間にか顧問となり、お付き合いが深くなった。お付き合いをして感じるのは、木村君は、とても気持ちの熱い人であるということだ。

エピソードの一つとして、既にマスコミに取り上げられたソマリアの海賊への援助である。命がけのことだと思われるが、熱い気持ちで海賊と接し海賊に生活基盤を与え、海賊から漁民に変身させた。また、豊洲市場への関与では残念ながら身を引くことになったが、それまでの彼の奮戦ぶりは涙なくして語れない。事実、彼は撤退の記者会見で涙していた。

木村君が周りから、どれだけ親しまれているか、彼と築地市場を回っているとわかる。どこの店からも木村君に声がかかる。お店で私が買い物しようすると「社長の知り合いですか?」と声がかかり、かなり安くしてくれる。これは親しまれていなければ、ないことだ。木村君と一緒に歩いていると、お客さんから「写真を撮って!」と言われ、なかなか前に進むことができない程だ。

ただ私は、木村君の忙しさを心配している。体が幾つあっても足りない感じだ。そんな彼をライオンズに誘ったのは私だ。それは、ライオンズの仲間から木村君は中大出身なので、是非、白門ライオンズの会員になってもらうよう頼まれたからだ。彼の忙しさがわかっているので、無理かなと思ったが声かけをした。少年兵の先輩からの声かけに木村君は負けてくれた。例会の出席は無理のようだが、会員として存在してもらっているだけで嬉しい。



海上自衛隊入隊時の水津L



特別会員の木村L

寄稿

ライオンズクラブと骨髄バンクについて

し大久保 英彦

(GST献血・骨髄移植委員会 副委員長)



はじめに、私の経歴を少し紹介させていただきます。

中大附属高校時代は陸上競技部に所属し、福岡インターハイに3種目(400m、4×100 mリレー、4×400 mリレー)出場しました。大学進学後も陸上を続ける予定でしたが、2度の自然気胸(肺に穴が開く病気)を経験し、断念しました。

1年生の夏頃にアメリカンフットボール部に入学し徐々に体を作り、4年間アメフトに明け暮れました。

就職は当時勢いのあった株式会社ダイエー(スーパー)に入社し、店舗マネジャーや社内インストラクターを経験した後、新卒の採用を担当し年間約1,000名の学生と面接を行いました。

そのダイエーもご存じの通り、拡大路線が仇となりバブル崩壊と阪神淡路大震災の影響により業績が悪化し、イオングループに吸収されてしまいました。ダイエーの将来に不安を感じ、海外から靴を輸入してアウトレットの店を始めようと準備を進めていました。

その頃、近所のゴルフの友人から骨髄バンクが人事経験者を探していると紹介され、数年お手伝いするつもりで入職しました。しかし様々な問題が山積しており、ついに62歳の定年まで勤務することとなりました。現在は理事(とはいえボランティアです)として運営のお手伝いをしています。

骨髄バンクは1991年12月に設立され、設立30周年を迎えたところです。当時の白血病は有効な治療法が無く、「不治の病」として患者さんやその家族は不安と絶望に立たされていました。当時、アメリカやイギリスで骨髄バンクの活動が先行しており、日本でも設立運動が広がり医師やボランティアが中心となり、100万人の署名を集め国に陳情し、設立が認可されました。

骨髄バンクの主な業務は、①ドナー登録者の拡大、②患者さ

んとドナーさんの移植に向けたコーディネートです。

白血病を代表とする血液の病気は多数あり、現在は様々な治療法が試され、山中伸弥教授が所長を務める京都大学iPS研究所とも共同研究が進められています。

国内で血液の病気にかかる方は年間約1万人であり、移植を必要とする患者さんはそのうち2,000人です。白血病は正常な血液が造れないため、体の中で様々な異変が起こり、命が危ぶまれるという厳しい病気です。

薬や放射線により治療しても完治しない方や、再発してしまう方は造血幹細胞移植という最後の治療を選択することになります。これは自身の悪い細胞を抗がん剤や強い放射線により死滅させた後、健康なドナーさんの細胞を輸注し入れ替えるという方法です。血液の病気になり、移植が必要になると白血球の型の合うドナーを探します。

はじめは家族で探すこととなりますが、兄弟姉妹間では四分の一、親は数百分の一、他人の間では数万分の一の確率でしか合いません。今は少子化で兄弟姉妹が少ないため家族で見つけるのは難しい時代であり、骨髄バンクのドナープールの中から探すこととなります。

ドナー登録は18歳から54歳までの健康な方で、2ccの採血で済みます。献血の時に骨髄バンクの検査用血液を採取することで登録が可能です。

現在、ドナー登録者は約54万人で、年間の移植数は約1,200件ほどです。移植を希望する患者さんの6割しか移植ができておらず、ドナー登録者が提供時に都合がつかないなどの理由により、思うように進まないのが現状です。患者さんと適合してから検査や提供時の入院などで10日ほど会社や学校を休むことが



ネックになっています。市町村によるドナー助成金制度や会社のドナー休暇制度の導入が急がれています。

3年前に水泳の池江選手が白血病を公表した際は、大きな反響があり、ドナー登録者が通常の2倍に増加しました。昨年は新型コロナウイルスの影響があり、外出自粛などで登録者は減少しましたが最近はややく通常時に戻ってきた感じです。

私が東京白門ライオンズクラブに入会したのは2012年5月ですが、骨髄バンクの広報渉外業務を担当していたため、ライオンズクラブとは2007年頃からお付き合いがありました。

330-A地区の歴代ガバナーや様々な委員会の皆様、330複合地区の役員の皆様にもご協力をいただきました。

当時、骨髄バンクの理事であった故・佐々木利和L(東京町田LC)から入会を勧められ、地元の東京小金井ライオンズクラブのお誘いをお断りして佐々木Lと親しかった榎秀郎Lをスポンサーに白門ライオンズクラブに入会することといたしました。

ライオンズクラブ入会後は、献血・骨髄移植委員会に毎期推薦をいただき(今回はGST献血・骨髄移植委員会 副委員長)、330-A地区のメンバーの皆様にも現状報告やライオンズクラブとして協力できることなどを提案してまいりました。

歴代ガバナーをはじめ、キャビネット役員の皆様や委員会活動を通じて他クラブの多くの方々と交流が持てたことは、私の財産になっています。

東京白門ライオンズクラブは大学支援が一番のアクティビティですが、2021年1月2日、3日には進藤ガバナー期のアクティビティコンペティションの一つである増上寺の献血活動にも白門ライオンズクラブの皆様にご協力をいただき、合同アクティビティ部門でアワードをいただくことができました。

他クラブの皆様には、大学支援しかアクティビティをしていないと勘違いされていますが、メンバーの賛同をいただき330-A地区のアクティビティに協力しています。

今年も1月2日(日)、3日(月)に芝増上寺での献血活動を行いました。白門ライオンズクラブから2日に横井L、根岸L、茂岡L、大久保、3日は榎L、大越L、河野会長、根岸L、小平L、増淵Lの10名が参加し、2日間合計で125名(昨年は107名)の献血がありました。

白門ライオンズクラブの白いジャンパー(背中に大きなCマーク入り)を着て活動していたところ、「駅伝の1区の選手はすごかったね」「中大応援しているよ」などの声をかけられ、Cマークの偉大さに感激しました。

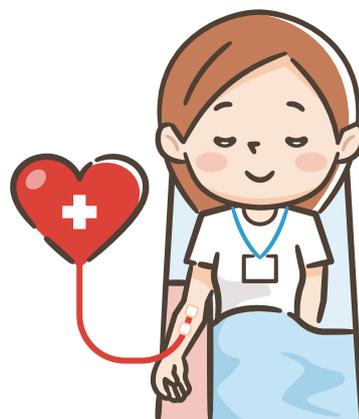
寒い時期は献血者が激減する中、このようなライオンズクラブの協力に対して日本赤十字社から感謝の意が伝えられました。

現在、中央大学では多摩キャンパスで献血が実施されています。今後は後楽園キャンパスでも実施できますよう、大学関係者と日本赤十字社の調整を行っていきたく考えています。

最後になりますが、白門ライオンズクラブの例会ではメンバーの皆様との懇親や講和など、とても勉強になることが多く、毎回楽しみにしています。

今回、このような紹介の機会をいただき感謝しております。これからも一人でも多くの患者さんが一日も早く回復できるよう、皆様の協力をいただきながら骨髄バンクの運営に協力していくとともに、ライオンズクラブの活動にも力を注ぎたいと思っています。

今後も330-A地区の皆さまを中心に、全国のライオンズクラブの皆さまに様々な話題を提供できればと思っております。引き続きご指導いただきますよう、よろしくお願いいたします。



2021年10月6日(水)

10月第一例会 於 銀座東武ホテル(桜の間)



2021年12月11日(土)

歳忘れホームパーティー 於 銀座東武ホテル(桜の間)

コロナ禍がやや下火になった中、考えられる対策は全て施したうえで開催しました。123名の出席者に3人の演奏者の総勢126名の大イベント！プログラム内容は盛りだくさんで、空いた時間が全くないという進行スケジュールでした。

第一部例会の中ではご来賓あいさつとして河合久学長の代読で佐藤信行副学長、ガバナー中井正力Lにいただきました。陸上競技部・硬式野球部・水泳部に大学支援金・お祝いの金の贈呈、誕生日祝い、新たに3名の入会者紹介とプログラムは進みました。ここでサプライズ！酒井前総長、福原前学長にお疲れ様の意を込めて横断幕を進呈いたしました。現役の学生応援団の方にもお手伝いいただきました。ありがとうございます。

第二部懇親会では中山終身名誉会長のご発声でウィ・サーブ。懇親会開始です。

テーブルインタビューで、陸上競技部・硬式野球部・水泳部の方々の後、酒井前総長・福原前学長にお話いただきました。その後、元ガバナー石井征二L・元ガバナー河合悦子L・元ガバナー村木秀之L・前ガバナー進藤義夫Lにお話いただきました。

息つく間もなくジャズシンガー「西村協」オンステージです。盛り上がりすぎてアンコールの声がかかるほどでした。

そしてお待ちかね柳家小団治師匠の司会によるオークション大会とラッキーカード抽選会の時間です。

オークション大会は中山先生夫妻による絵画や書を筆頭に大変レアな賞品が展覧され、大いに盛り上がり、さすが柳家小団治師匠の名調子でした。

ラッキーカード抽選会は130点超の賞品を出品していただきました。時間が限られているなか、いかにドキドキしてもらえるか、商品の受け渡し等で混乱を起こさないか、を毎年試行錯誤しながら行っていますが、今回は賞品をカテゴリーごとに分け、ラッキーカードにお名前とテーブル番号を記入していただくという工夫をしまして、抽選の興奮と混乱、時間の抑制という両面を両立出来たのではないかと思います。柳家小団治師匠、素晴らしい名司会をありがとうございました！

そして名残惜しいのですが、櫻井L率いる現役の応援団のサポートにより校歌を歌いまして、閉会の挨拶・閉会のゴングで大変盛り上がる中時間内に終了いたしました。オークション大会・ラッキーカード抽選会に賞品をご提供くださった皆様、そして当日運営にご協力くださった皆様、誠にありがとうございました。毎年のごながら皆様に感謝申し上げます。 【L竹内 敬雄・記】



2021年歳忘れホームパーティー印象記

12月11日(土) 11時30分より銀座東武ホテルで歳忘れホームパーティーが盛大に開催されました。コロナ禍が2年近くも続く中での開催でしたが、このところの感染者数の劇的な減少やコロナ疲れもあるのでしょいか、一番に驚いたのが出席者の多いことでした。

メンバーはもとより声をかけた大学関係者、他クラブや現元ガバナーの方たちもこぞって参加頂けたと聞きました。ありがたいことです。やはり人がたくさん集まる光景は賑やかな雰囲気があっていいものですね。新型コロナ(オミクロン株)が出てきて再度の感染拡大が心配ではありますが、一日も早くコロナが終息し通常の例会が開催できる日が待たれます。

第一部例会が始まり印象深かったのは河野信之会長の挨拶でした。大谷翔平のアメリカ大リーグでの活躍を例に「夢をあきらめるな」の言葉です。停滞感が蔓延しているコロナ禍での生活に、常に夢を持つことの大切さを改めて気づかせてくれた気がしました。

また来賓の挨拶では、代読ではありましたが河合久学長が新学長として大学発展のための計画を着々と進められていることが報告され、頑張っておられる姿が目に見えようでした。

また現ガバナーの中井正力Lにも丁寧な挨拶を頂戴しました。

そしてこの歳忘れホームパーティーでのクライマックスは、なんといっても大学支援を標榜する我が東京白門ライオンズクラブとして、陸上競技部、硬式野球部、水泳部に対する支援金の贈呈であろうと思います。鈴木誠終身理事長から三部長への贈呈がなされましたが、それを見るたびに当クラブが母校中央大学に奉仕していることを改めて実感した瞬間でした。

第一部例会に続き第二部の懇親会は、中山正暉終身名誉会長のウィ・サーブで始まりましたが、遙々大阪から奥様共々駆け

つけて頂き相変わらずの元気で愉快的挨拶も交えご発声を頂きました。来年で90歳になるとのお話がありましたが、いつまでもお元気で出席頂けることを願わずにはられません。

会食が開始となりいつものながらの美味しいフレンチのフルコース。例年はない大学関係、元ガバナー等の「テーブルインタビュー」は、毎年悩ましい来賓挨拶と時間との闘いの工夫として大会実行員の腕の見せ所であったと思えました。よかったです。

そしてやはり何といても歳忘れホームパーティー最大のお楽しみはオークション大会とラッキーカード抽選会ですね。これも時間との勝負。進行役の柳家小団治師匠には本業の落語と違って大変だったと思えました。またラッキーカードの扱い方など工夫がありました。

この抽選会、いつもながら集中して当たる人もあれば、ほとんど当たらない人もいました。しかしこれは時の運。やむを得ないことですね。私も初めてすしざんまいのまぐろが当たりましたが、5枚中3枚ハズレ?(すしざんまいのチケットは頂きました。)それでも歓声とため息が渦巻くのが抽選会の楽しいところ。だからこそやめられませんよね。

今年のお土産は例年とは異なり、シクラメンに加えて小川軒のレーズンウィッチと選べることにしたのもナイスアイデアだと思えました。

今年の歳忘れホームパーティー、総じて大変楽しく過ごすことができたと思います。

ホテル側からも大人数でのパーティーは未だ制約があったと聞きました。その中で準備から終了まで携わった実行委員の皆さんには大変だったと思います。本当にご苦労様でした。

【L田口 彰紀・記】

2022年1月5日(水)

1月第一例会 於 銀座東武ホテル(桜の間)

更に福寅の幸先良い前ぶれか? 新年早々から本年度に入り10人目の入会式。岩佐義純様(スポンサー・茂岡幹弥L)大いに活躍が期待される新入会員!!

拍手の内大歓迎の和で輪が広がった。更にさらにめでたい事に深澤英雄様、黒田天樹様の有力入会候補者両人共(スポンサーは榎秀郎L)が出席。

後期の良運を象徴するかの様な船出である。出席者28名、ドネーション¥100,044。結びは結成以来18年目で初めて廻って来たりジョン、チェアパーソン榎Lの閉会のゴング。万々歳の新年例会であった。 【L大越武雄・記】



ご報告

硬式野球部よりお礼状

清水 達也 監督

昨年の歳忘れホームパーティーにて理工学部部長・硬式野球部部長の檜山和男先生へ支援金を贈呈しましたところ、清水達也監督よりお礼状が届きましたのでご報告いたします。

謹啓 貴殿いよいよご隆昌のこととお慶び申し上げます。日頃は色々ご厚情を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、この度は過分なるご寄付を頂きまして誠にありがとうございます。これもひとえに弊部の活動をご理解いただき、応援して頂けていることだと身に余る光栄に存じます。

おかげさまでたくさんの方々にご助力を頂き、スタッフ・部員一同深く感謝いたしております。東都大学野球リーグ戦の優勝、そして日本一という関係者一同の悲願を達成すべく例年以上に精進していく所存であります。どうぞ、今後もお力添えの程宜しくお願い致します。

なお、頂いたご寄付に関しましては、弊部の悲願達成のために有用に使用させていただきます。

日中の気温の変化が大きい日が続きますが、くれぐれも御身ご自愛ください。まずは略儀ながら書面にてご挨拶申し上げます。

謹白



昨年の秋季リーグの様子（硬式野球部ブログより）

お知らせ

茗荷谷、駿河台キャンパス開設 (2023年4月) 中央大学広報室より

2023年4月文京区に茗荷谷キャンパス、千代田区に駿河台キャンパス開催のため、校舎建設が急ピッチで進んでいます。法学部、大学院法学研究科が多摩キャンパスから茗荷谷キャンパスへ移転。またロースクールが市ヶ谷キャンパスから駿河台キャンパスへ、ビジネススクールが後樂園キャンパスから駿河台キャンパスへ移転します。

茗荷谷キャンパスは地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅から徒歩1分、外装は中央大学の前身である英吉利法律学校の赤れんが造り校舎をモチーフとしつつ、低層階には、旧駿河台校舎と同じ尖頭型アーチを取り入れ伝統的かつ端正な様相の中にも開放感のある空間となります。大学施設のほか、文京区の地域活動センター、保育所、郵便局、カフェが併設され地域社会の発展にも貢献してまいります。

駿河台キャンパスは、卒業生や教職員の交流や公開講座実施など、都心における多岐にわたる活動の拠点として大きな役割を果たしてきた駿河台記念館の跡地に建設中です。

今後も中央大学が大きく羽ばたいていくような上昇感のある外観となり、これまで以上に学生、卒業生および

教職員が親しみ集える施設として新たに生まれ変わります。

茗荷谷・駿河台・後樂園、この3つのキャンパスは地下鉄丸ノ内線1本の好アクセスでつながります。

法学部3年間、ロースクール2年間、合計5年間の一貫した教育課程による法曹養成の一層の充実、法学系と理工系が有機的に連携した教育、研究の分理融合や、企業や実務家との連携など都心立地を活かした展開が期待されます。



建設中の茗荷谷キャンパス

新入会員紹介



安藤 秀樹

正会員（スポンサー河野信之L）
昭和32年4月17日生
昭和55年理工学部卒
マサチューセッツ工科大学修士
エナジーサービスグループ株式会社
カントリーマネージャー



岩佐 義純

正会員（スポンサー茂岡幹弥L）
昭和47年9月21日生
平成7年法学部卒
株式会社イワサキカク 代表取締役
南甲倶楽部会員



佐藤 信

正会員（スポンサー榎秀郎L）
昭和36年6月14日生
経済学部卒
株式会社ジービーエス 代表取締役
中央大学応援団監督

※入会順の並びです

編集後記 —— 河野丸前半期雑感

白門ライオンズクラブも第18期を迎えて、河野信之会長と竹内敬雄幹事長は合わせて119歳という、これまでにない若い執行部。皆の期待を膨らませた出航である。まずは前半期の11回ある例会等のうち、9回開催という驚くべき実行力をご紹介。

新年度、①7月第一回例会はたまたま七夕。幸先良い出航で河合久新学長の入会!! ほか武内正行L（支援会員）の入会。出席者は27名、ドネーション¥117,000（以下DN）。②同月21日の第二例会は佐藤信行副学長の入会。出席者は19名、DN ¥79,000。楽しみだった納涼例会と9月第一例会は憎きコロナで止む無く中止。

③9月15日、ご存知4Rガバナー公式訪問には白門ライオンズクラブがリジョンチェアパーソンであり、中井ガバナーは白門の親クラブという立場から、このコロナ騒ぎのなか決断・決行!! 58名参加のうち、自クラブ21名と1/3の参加者で氣勢をあげた。

④10月第一例会（10月6日）久々のホーム例会を開催。井上彰本学名誉教授（特別会員）と福田守弘L（支援会員）の入会、さらに入会希望のあった安藤秀樹氏の参加で出席者28名、DN ¥120,000。また、会員増強委員会として卒業生200余人に対し会報および入会のしおりを発送!! 白門ライオンズクラブのPRを実施!!

⑤10月第二例会開催（10月20日）。出席者19名、DN ¥74,000。⑥11月第一例会開催（11月4日）。10月に入会見学された安藤秀樹L入会!! パチパチ!! そして入会希望の岩佐義純氏も参加され出席者23名、DN ¥108,000。ゲストスピーカーには池田幸司L（児童養護施設の現状）。⑦11月第二例会開催（11月17日）。出席者18名、DN ¥85,000。

⑧そしてお待ちかねの歳忘れホームパーティー（12月11日）。現・元ガバナーはじめメンバー55名、ビジター66名で賑やかに開催。入会希望として佐藤信氏（応援団監督）が参加。詳細は6～8ページにて別記。⑨4日後、12月第二例会を開催（12月15日）。年末最終例会はちょっと寂しく18名、DN ¥92,000。やはり昼例会は参加者とDNが少ないのが課題である。

以上、前半期の概要である。このコロナ禍のなか中止はわずか2回だけ。ほとんど無寄港の順調な河野丸の航行である。後半期の更なる順風満帆を祈りましょう。

追記、中山終身名誉会長にはガバナー公式訪問、歳忘れホームパーティー等肝心な際にはわざわざ関西からお出ましく下さいまして、頭の下がる思いです。厚く御礼申し上げます。水津L、大久保Lにはご寄稿いただき紙面を盛り上げてくださりましてありがとうございました。

付記、この雑感は裏幹事の様な右江かずえ事務局の明快なメモあつての記事である。

【L 榎 秀郎・記】

Quarterly of Lions 2021.10-11-12-2022.1 No.24

発行日 2022年1月20日

発行人 河野 信之

編集/総務・広報委員会 委員長 田口 彰紀 副委員長 大越 武雄
コーディネーター 榎 秀郎

発行所 東京白門ライオンズクラブ

事務局 八王子市南大沢3-14-4-304 TEL/FAX.042-676-4147

制作協力 株式会社 ノラ・コミュニケーションズ

白門ライオンズ会報 揮毫 中山 正暉L



2021.7 ~ 2022.6

白門ライオンズの誓い
我々は、会員相互の友情
の絆を基に、同窓・学員の
信頼を深め、知性の根源
である中央大学の発展に
寄与することを誓う。
東京白門ライオンズクラブ

クラブスローガン

白門の絆を奉仕で結ぶ母校愛

東京白門ライオンズクラブ

白門ライオンズクラブ 🔍

<http://hakumon-lions.org>